

目次

『兩足院本毛詩抄』の疑問表現……………山田 潔……………一
——「ぞ・やら・か」の用法——
抄物における「影略互見」について……………坂詰 力治……………元
——用例を中心として——
「中世文語」とは何か……………田和真紀子……………三
——「文語」の二義性と国語学史上の空白——
女中ことば集の系譜（前編）……………松井 利彦……………五
——新出の元禄五年本をめぐって——
近世音韻学における促音挿入形……………肥爪 周二……………七
——『かたこと』『倭語連声集』『漢字三音考』——

漢語の語性……………	今野 真二……………	三
鈴木胤の「心ノ声」……………	小柳 智一……………	二五
——『言語四種論』読解——		
『雅言集覧』における『栄花物語』用例……………	平井 吾門……………	三六
『蜘蛛絲梓弦』の仙台浄瑠璃に関して……………	長崎 靖子……………	三六
上方のオーキニの発生と定着……………	田島 優……………	三六
夢酔独言の動作性謙讓表現 付・オル……………	小松 寿雄……………	三七
江戸時代末期人情本にみられる「です」の待遇価値再考……………	浅川 哲也……………	三九
——人情本の「です」は謙讓語ではない——		
辞書における挿絵の展開……………	木村 一……………	三五
——一九世紀の英和辞書、国語辞書、和英辞書を資料として——		
「遊星」から「惑星」へ……………	米田 達郎……………	三五
——明治時代以降を中心に——		
節用集終焉期の諸相……………	佐藤 貴裕……………	三七
——昭和期点描——		
所謂「さ入れ言葉」の一表現について……………	丸田 博之……………	三九
——「そうだ」が下接する場合——		
授受補助動詞における用法・機能拡張……………	伊藤 博美……………	二〇五
——「ていただく」を中心に——		
昭和前期台湾における国語の「誤用」とその頻度……………	園田 博文……………	一八五
大正14年『読売新聞』記事に見る方言関連の言語意識……………	新野 直哉……………	一六七
漱石作品における「であった」「だった」の様相……………	北澤 尚……………	一四三

『哲学字彙』の見出し語とフェノロサ講義「哲学史」	真田 治子	125
明治期日本語学習書の仮名表記	常盤 智子	103
——『春秋雜誌会話篇』整版本と活版本とを比較して——		
明治初期の口語体啓蒙書における一人称代名詞	近藤明日子	85
——近代の口語体実用文との関係性の検討——		
明治初期語彙の文体差と意味的特徴	田中 牧郎	63
——文化・歴史・風俗・禍福の語彙を例に——		
『改正増補蛮語箋』の「草」部と「木」部について(下)	櫻井 豪人	43
近世後期江戸語における丁寧な言葉遣い	山田 里奈	23
——〈行く・来る〉を例にして——		
近世上方の「ねま(寝間)」について	村上 謙	1

『兩足院本毛詩抄』の疑問表現

——「ぞ・やら・か」の用法——

山

田

潔

一 『玉塵抄』 「ぞ・やら・か」の用法

惟高妙安の講述に係る『玉塵抄』（二五六三年資始）には、疑問の助詞「ぞ・やら・か」（以下、ゾ・ヤラ・カと表記）が夥しく用いられている。全55巻の用例数は、ゾ約800例・ヤラ約3500例・カ約6300例である。そのうち、10巻までの、ゾ189例・ヤラ459例・カ1157例を対象として、それぞれの用法を分析した結果、およそ次のような結論が得られた（詳しくは、拙稿『玉塵抄』の疑問表現―「か・ぞ・やら」の用法―（『國學院雑誌』二〇二一年二月）を参照せられたい。以下前稿と称する）。

まず、疑問の助詞ゾ・ヤラ・カは、疑問詞と呼応する場合と、疑問詞を伴わず単独で用いられる場合とに二分される。疑問詞と呼応する場合にはゾ・ヤラが用いられ、単独の場合にはカ・ヤラが用いられる。すなわち、疑問のゾは疑問詞を承ける場合にのみ用いられ、逆に、文末のカは疑問詞と共起しない。ヤラは両様に用いられる。

「疑問」の表現形式は、「疑い」と「問いかけ」とに分けられる。平安期の疑問の助詞「か」「や」で言えば、「あるかなきか」は「疑い」であり、「ありやなしや」は「問いかけ」である。⁽¹⁾前者「疑い」は「述定（≡対事的モダリティ）」に、後者「問いかけ」は「伝達（≡対人的モダリティ）」に属する。それは、対者（≡対話の相手）を必要とするか否かの相違である。『玉塵抄』の文章について言えば、「述定文」⁽²⁾は地の文（≡講述者の説明）、「伝達文」は会話（対話）文（≡対話の引用）に相当する。以上、二つの観点から、ゾ・ヤラ・カの用法を分析すると、次のように表示される。

